

令和元年度
事業報告書

令和2年5月26日



学校法人Y S E 学園
横浜システム工学院専門学校

目 次

I.	法人の概要	1
II.	理事会及び評議員会の運営状況	1
III.	学校の概要	1
IV.	学生数の状況、就職状況	2
V.	事業報告	2
VI.	安全対策・盗難予防	5
VII.	PCリプレイス・増設	5
VIII.	その他特記事項	5
IX.	緊急事態等と共生の時代に向かって	6

令和元年度事業報告書

I. 法人の概要

令和2年3月31日

法人名	学校法人YSE学園
所在地	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128番4
理事長	杉山 勝巳
理事	足立原 泰、酒井 達男、仲久保 正人、中村 伸行
監事	八木 一郎、池本 康次（令和2年3月26日付就任） ※ 林 宇一郎 監事 令和2年1月16日付で病のため退任願受理
評議員	杉山 勝巳、青木 聡、秋山 恵美子、浅川 佑、酒井 達男、佐藤 登志徳 清水 洋平、杉山 明彦、富永 英世、仲久保 正人、中村 照栄、杷野 恭久 馬場 健一

II. 理事会及び評議員会の運営状況

開催年月日	名称	議題
令和元年5月24日	理事会 評議員会	第1号議案 平成30年度事業報告書承認の件 第2号議案 平成30年度決算報告書承認の件 第3号議案 任期満了に伴う役員及び評議員改選の件
令和元年9月26日	理事会 評議員会	第1号議案 ネット時代に求められる教育環境づくりについて 第2号議案 喫煙の全面禁止について
令和2年1月16日	理事会 評議員会	第1号議案 学則変更（令和2年4月1日施行）について 第2号議案 学則変更（令和3年4月1日施行）について 第3号議案 寄附行為変更（令和2年4月1日施行）について 第4号議案 役員報酬規程（令和2年4月1日施行）について 第5号議案 林監事の退任願の取扱いについて
令和2年3月26日	理事会 評議員会	第1号議案 令和元年度収支補正予算（案）承認の件 第2号議案 成績評価基準改定（案）承認の件 第3号議案 令和2年度事業計画（案）承認の件 第4号議案 令和2年度収支予算（案）承認の件 第5号議案 監事補充の件

III. 学校の概要

令和2年3月31日

学校名	横浜システム工学院専門学校
所在地	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128番4
学院長	杉山 勝巳 （A号館）
総務企画室 室長	杉山 明彦 （A号館）
アドミッションセンター センター長	馬場 健一 （A号館）
教務事務総括室 上席室長	佐藤 登志徳 （B号館）
グローバルITビジネス教育指導室 上席室長	中村 照栄 （B号館）
先進IT教育指導室 上席室長	青木 聡 （B号館）
キャリアセンター センター長	杷野 恭久 （B号館）
教育設備管理室 室長	富永 英世 （B号館）

IV. 学生数の状況、就職状況

(1) 2年次進級者数

令和2年3月31日

学 科	入学定員	入学者	進級者	日本人	留学生
IT・ゲームソフト科	40	52	49	22	27
ロボット・IoTソフト科	20				
コミック・CGアニメ映像科	20	6	6	4	2
グローバルITビジネス科	160	157	152	0	152
合 計	240	215	207	26	181

(2) 新入生数

令和2年3月31日

学 科	入学定員	入学者		日本人	留学生
IT・ゲームソフト科	40	57		28	29
ロボット・IoTソフト科	20	15		10	5
AIサービス活用科	20	21		12	9
グローバルITビジネス科	160	184		2	182
合 計	240	255		52	225

(3) 就職状況

令和2年3月31日

		日本人	留学生	合計
就職	卒業生	17	156	173
	在籍者に占める留学生の割合	14	134	148
	就職希望者	12	99	111
	内定者	86%	74%	75%
	就職率	71%	63%	64%
進学		0	5	5
未内定・未希望		5	49	54
帰国			3	3

V. 事業報告

本校を取り巻く環境は、目まぐるしく変化し、パラダイムシフトが起こっているが、それを踏まえて令和元年度事業計画達成に向けて取り組み、地域社会に卒業生を輩出し、社会的責任を果たしてきた。併せて、YSEブランドコンセプトを周知し、習熟度に応じた教育実現に向かって、令和4年度までの「教育改革計画」を打ち出し、教室内に留まることなく、LMS（Learning Management System）を併用したネット教育を展開できるように、eラーニング教材の準備を進めてきた。

教職員数を増員し、コミュニケーションの活性化並びに能力開発に努めた結果、教育力の向上や業務改善が進んだ。特に、コンテスト等では、大きな成果をあげることができた。ドロップした学生は、対前年比で見るときめ細やかなフォローによりわずかながら減少した。

新入生数は、目標を達成しているが、留学生依存比率が過大であり、令和2年度は、日本人学生比率をあげられるよう取り組み方を検討してゆく。

就職率は、支援体制の充実と共に向上しつつあるが、令和2年度は留学生の求人先を増や

す体制づくりを検討してゆく。

事務関係業務は、クラウドを始め、様々な事務改善ソフト等の活用により効率化・正確性の向上等を達成しつつある。

本年3月以降は、新型コロナウイルス感染防止に向け、教育面でも新たな対応が求められている。本校としては、将来を担う学生の教育は続けなければならないという姿勢で、出来る限りの対応を図っていく。

一方、コミック・CGアニメ映像科は、三重県大台町との産官学連携による映像作品を制作し、大台町長より「感謝状」が贈られ、有終の美を飾ってAIサービス活用科に継承した。

A) YSEランドコンセプトの作成・周知

- 1 建学の精神の周知
- 2 経営理念・経営方針・経営目標・経営方法の周知
- 3 教育理念・教育方針・教育目標・教育方法の周知
- 4 教学マネジメント（3つのポリシー）の周知
- 5 令和4年度までの構想の周知

B) 教育指導目標・事務改善目標の達成状況

- 1 入賞体験をさせることにより、自信・主体性を育んだ。
 - ① ゲームコンペ
主催：全国専門学校情報教育協会
 - ② 学生ITコンテスト ビジネス企画部門 優秀賞
ゴミ分別AIサポートシステム「ごみぶん」
主催：神奈川県情報サービス産業協会
 - ③ 学生ITコンテスト ビジネス企画部門 入選（最終選考）
食品ロスを解決！お買いもの支援アプリ「みつけもんGO」
主催：神奈川県情報サービス産業協会
 - ④ WOW PITCHかながわ学生ビジネスプランコンテスト 審査員特別賞
主催：WOWPITCHかながわ学生ビジネスプランコンテスト
 - ⑤ 留学生スピーチコンテスト 優秀賞
主催：ベトナムフェスタin神奈川実行委員会
 - ⑥ 第31回外国人留学生による日本語スピーチコンテスト 神専各 会長賞
主催：神奈川県専修学校各種学校協会横浜支部

C) 教育方法

- 1 シラバスの充実
到達目標並びに成績評価基準の明確化を図った。
- 2 アクティブラーニングやグループ制作、発表会の活用などを通してチーム力の向上に努めた。
- 3 教えたことを活かしモノづくりができるスキルが身につくように努めた。
- 4 産学連携授業や産学コラボレーションの活用により、実践力養成に努めた。
 - ① 産学連携授業：webシステム制作/IT・ゲームソフト科
 - ② 産学連携授業：ショッピングサイト制作/グローバルITビジネス科
 - ③ 産学連携授業：映像作品制作/コミック・CGアニメ映像科
三重県大台町町長より「感謝状」贈られた。
- 5 プレゼンテーション力を磨ける機会を設けた。
 - ① 留学生による日本語スピーチコンテスト
 - ② 卒業制作発表会

③ Y S E フェスタ

6 L M S の活用によるオンライン授業を実施した。/ I T ライセンス科

7 映像システム導入による動画活用教育推進

映像システムの導入には至っていないが、動画の制作や活用を試行した。

8 修学旅行

団体行動経験の場として、さらには、見聞を広める機会として実施した。

先生と学生の交流や仲間同士の親睦を深める場としても有意義であった。

工業専門課程 伊勢神宮／熊野古道・那智大社・那智大滝

商業実務専門課程 ユニバーサル・スタジオ・ジャパン

D) クラス運営

1 学生の生活指導に努めた。

2 アルバイトの実態確認・指導に努めた。

3 学修のフォローに多くの時間を割いた。

4 教務事務スタッフや就職支援スタッフと連携して学生指導の円滑化を図った。

E) 就職支援目標の達成状況

工業専門課程の就職内定率：86%

商業実務専門課程の就職内定率 74%

1 タイムリーなテーマによる就職ガイダンスを開催した。

2 学生一人ひとりの就職活動状況を把握する仕組みづくりを行った。

3 就職支援に役立つ資料、データの整備と標準化を促進した。

4 Y S E キャリアネットをスマホからも閲覧できるようにした。

5 クラス担任と連携を深めることにより就職率の向上に努めた。

6 校内会社説明会、校内会社面接会等を随時設けた。

7 留学生の求人先開拓に努めることが欠かせない。

8 特定活動ビザ申請手続きの円滑化に努めた。

F) 学生募集目標の達成状況

日本人学生の出願者が増えてきた。

1 日本人クラスの定員充足率が向上した。

2 留学生クラスの定員は充足できた。

3 公共職業訓練生が入学したこともあり日本人学生が増加した。

I T ・ゲームソフト科1年生 4名

ロボット・I o T ソフト科1年生 6名

4 季刊誌 Y S e y e 、フリーペーパー Y S E n e w s 等の充実・有効活用を努めた。

Y S e y e 春号、夏号、秋号、冬号発行

Y S E n e w s 第54号10月号、第55号11月号、第56号12月号、第57号1月号

第58号2・3月号発行

5 P C 版ホームページとスマホ版ホームページのタイムリーな更新、充実を図った。

6 営業企画会議を設け、高校訪問方法や体験入学運営方法、広報方法等のレビュー見直しを行い、学生募集活動に反映した。

ネット体験入学、ネット相談、ネット出願等に対応した。

7 I n f o C l i p p e r の活用による入試事務負担の軽減・効率化。正確性の向上を図った。

G) 事務改善目標の達成状況

1 学費・教材費徴収回数を年2回に変更し、学費等の回収率向上に努めた。

2 計画的な指導と「ビザ更新手引き」などの活用により、ビザ更新事務の円滑化に

- 努めた。
- 3 諸規程の改定等に努めてきた。
- 4 公共職業訓練業務受託に伴う事務を円滑に遂行した。

H)業務改善

- 1 学生のしおり等をホームページに掲載した/教務事務総括室
デジタルドキュメントソフト「meclib」の利用により、スマホからも閲覧できるようにした。
- 2 留学ビザ更新に係る資料のホームページ掲載/教務事務総括室
- 3 Info Clipperへの業務移行を予定にそって進めた。

VI. 安全対策・盗難予防

- 1 防犯カメラの設置により、校舎出入口の安全対策、盗難予防を続けている。
- 2 セコムとの契約を継続し、警備保障を行っている。
- 3 セコム損害保険に加入している。
- 4 非常時災害や自然災害に備えて、(株)アイネットのクラウドデータ保管サービスを利用して、重要データの外部保管を行っている。

VII. PCリプレース・増設

令和2年度からの授業を円滑に行えるように、老朽化したPCのリプレース・増設を行った。

- | | |
|-------------------------|------|
| 1 教職員用PC | 15台 |
| ① Chromebook | |
| ② Chromebook管理ソフトライセンス | |
| ③ 光学式マウス | |
| 2 グローバルITビジネス科用PC | 100台 |
| ① Chromebook | |
| ② Chromebook管理ソフトライセンス | |
| ③ 光学式マウス | |
| 3 AIサービス活用科用PC | 8台 |
| ① LITTLEGEAR i330SA4-SP | |
| 4 IT・ゲームソフト科用PC | 18台 |
| ① OMENbyHP- c 6 0003TX | |

VIII. その他特記事項

- 1 安心して過ごせる学園生活
学生及び教職員が安心して学園生活を送れるよう下記対策を講じている。
 - ①学生・生徒災害傷害保険加入（一般財団法人職業教育・キャリア教育財団）
 - ②留学生補償保険加入（一般財団法人職業教育・キャリア教育財団）
 - ③学校賠償責任保険加入（一般財団法人職業教育・キャリア教育財団）
 - ④個人情報漏えい保険加入（一般財団法人職業教育・キャリア教育財団）
- 2 高等教育無償化制度適用対象校の認定申請を行い認定証を受理した。
- 3 公共職業訓練講座を前年に続き受託した。

①Java・基本情報対策科7月コース（4か月）	16名 修了
②Java・基本情報対策科11月コース（4か月）	15名 修了

※上記短期間コースは令和2年度は見合わせる。

- ③2年課程 IT・ゲームソフト科1年生 10名 2年次進級
- ④2年課程 ロボット・IoTソフト科2年 2名 卒業

4 仕事のまなび場に協力

高校生を対象に、仕事理解及び本校を知ってもらう場として、神専各が毎年主催している当該夏季講座に協力参加した。

- ①Unityを使った3DCGゲーム制作 7名
- ②webサイト作成ツール「Wix」を利用してショップサイトを製作しよう 3名
- ③人工知能を使った画像認識体験 3名
- ④センサとプログラムで何でもロボットにできるIoTソフトウェア制作体験 6名

5 高校教員向け夏季セミナーを実施した。 令和元年8月8日 Excelによるディープラーニング 12名

6 小学生プログラミング講座を実施した。

- ①4月開講6か月コース
- ②10月開講6か月コース

※地元貢献の一環として、近隣小学生を対象に実施してきたが、令和元年度終了をもって取りやめる。

7 同窓会を実施した。

令和元年5月26日（日）に実施。（毎年5月の最終日曜日に実施。）

8 会議

- ①クラス担任会議 クラス運営の円滑化に向け、毎週1回開催した。
- ②企画運営会議 学校運営の円滑化に向け、毎月随時開催した。
- ③営業企画会議 ネット体験入学の実施に向けて、コンテンツの検討・制作を行った。

9 令和元年度私立学校検査が行われた。 令和2年2月25日（火）

10 令和2年3月31日をもって敷地内での喫煙可能期限終了し、令和2年4月1日からは、校舎内・敷地内・通学路等全面禁煙にする。

IX. 緊急事態等と共生の時代に向かって

新型コロナウイルス感染予防対策として、政府から緊急事態宣言発令や神奈川県が特定警戒地域指定を受けたことにより、予定通り学習機会を提供できないコロナ休校を続けている。

本校は、一日も早くコロナ禍が収束するように、感染リスクを可能な限り避け、学生の自宅待機や自宅学習、教職員の時差勤務や在宅勤務等を実施するなど、危機感をもって感染予防策を講じている。教育面では、暫定的に緊急時対応を続けている状況であるが、準備のできた学科からオンライン授業を始めている。これからはスピード感をもって準備を進め、学生の学習機会と授業の質を可能な限り保証できるように取り組んでゆく。

緊急時対応は、本校のみならず、日本の教育機関全般に共通する課題であると言われており、世界でも大きく遅れをとっていることが認識されている。この度のコロナ禍を教訓に、それを取り戻すべく、教育機関は、学校種別を問わず全国的にオンライン教育機運の盛り上がりと取り組みが同時並行的に急ピッチで展開されている。

ここでの対応は、本校にとっても教育機関としての真価が試される剣が峰である。幸いにして、すでにITライセンス科や体験入学等でネット教育ソフト「LMS」によるオンライン教育を行っており、オンライン教育の基盤はできている。それを活かし弾みをつけてこの試

練を乗り越え、1日も早く平常授業を取り戻し、授業の不足分は、夏季休業期間等を使うことにより吸収する。

この新型コロナ感染は、収束しても絶滅するわけではなく、周期的に繰り返す可能性があると言われてしている。

これからは、新型コロナのような感染力の強いウイルスを始め、自然災害や災害警報等に振り回されることなく、それらとの共生を前提に、これからの多様化する時代に欠かせない対面とオンラインによるハイブリッド型の学びをスピード感をもって提供することが、学校としての使命であり、さらに、eラーニングによる習熟度別教育ができてこそ、存在感を高めることができると思われる。

については、この試練を活かして「YSEグランゴコンセプト」の実現に向かってまい進することにより、先進的IT人材やグローバルITビジネス人材を地域社会に輩出し、社会的責任を果たして社会的信用の向上を図ってゆく。

以上